



令和4年 12月 校長挨拶 (教育活動報告)
(現在までの教育活動の報告と台湾国立新竹高級中学校との
姉妹校交流締結のお知らせ) 校長 野田麻由美

- 今年度は大師強歩以外、例年通りの学校行事(合唱コンクール・文化祭・体育祭・球技大会・遠足・研修旅行)を実施しています。
- 多摩高校の3年間は生徒を大きく成長させます。生徒には多摩高校で学ぶことに自信を持って欲しいと考えています。本校の校訓の「自重自恃」は、自分の能力を信じ、誇りを持ち、広く社会の発展に寄与する人材になることを求めています。多摩高校で学んだ全ての生徒が、社会で活躍してくれることと期待しています。
- 多摩高生であることに誇りを持ってもらい、日常の学びや生活に更に意欲が沸くように、各学年対象に「学校からの応援」企画を設けています。2年生には例年、同窓会の協力を得て、大学出前授業に、本校卒業の大学教授をお招きしています。今年は7人の教授(中野知子 東京慈恵医科大学特任教授 / 遠藤朋宏 東京薬科大学特任教授 / 羽原英明 大阪大学准教授 / 阿部曜子 津田塾大学准教授 / 高村陽太 東京工業大学准教授 / 番場大 東北大学准教授 / 安本雅典 横浜国立大学教授)にご協力いただくことができ感謝しております。
- 社会で活躍されている卒業生の姿に直に触れ、その生き方に学ぶことが、本校生徒に対する一番の刺激であり、応援になると考えております。参加いただいた全ての方が「多摩高校での幅広い体験や学びが社会人となった時の学びや仕事のベースとなっている」と熱く、生徒にエールを送ってくださいました。ありがとうございました。
- また、3年生向けには11月18日に東京大学大学院情報学環教授・ソニーコンピュータサイエンス研究所京都研究室ディレクターの他多くの大学や研究所で顧問等関わっていらっしゃる本校21期生の暦本純一教授をお招きして、先生の研究の一端をお話しいただきました。先生はスマートフォンの画面を指で拡大できる機能「スマートスキン」の開発者で、まさに、世界中の人間が先生の発明の恩恵を受けているという世界規模で貢献、活躍されている方です。(ウィキペディアで「暦本純一」を検索すると「東京都生まれ、神奈川

県川崎市出身。神奈川県立多摩高等学校を経て・・・」と本校の名前が出てくる誇らしさや、このような方にオンラインではなく、講演していただける機会を得ることができる多摩高校の素晴らしさを校長の思いとして生徒にも伝えます)

生徒にはこうした、多くの素晴らしい先輩の後を追って欲しいと思っています。



本校 21 期 暦本純一先生 (中央)

- 全体の土台を固める企画として、1 年生には 12 月 1 日にノーベル賞候補にも名前が挙がる、「光触媒」の反応発見の藤嶋 昭教授 (東京理科大学名誉教授・初代東京大学特別名誉教授) をお招きしてご講演 (英語) いただきました。



- 1 年生はこの日「さくらサイエンスプログラム」という国際交流プログラムで招聘された 6 개국 (アルゼンチン・コロンビア・ウズベキスタン・モルディブ・マーシャル諸島・ミクロネシア) からの高校生 18 人が教室に入って、ともに授業を受け、交流するというプログラムも行いました。
藤嶋先生の英語による講演も一緒に参加し、質疑応答を行いました。

- 昨年度にご講演いただきました「ニホニウム」発見者の九州大学の森田浩介教授に引き続き、世界的な研究者から直に研究についてお話を伺える機会を生

徒に提供することができました。

- 本校は現在、国の指定の SSH、県の指定の「学力向上進学重点校エントリー校」の両輪で教育活動を進め、全ての生徒に良質な教育の機会を提供することを目指しています。生徒には学校が提供する機会を自己の学びや成長に活かして欲しいと思います。SSH は科学分野人材やグローバル人材の育成を推進が求められており、本校では全生徒に対して設定している多くの教育機会です。土台を作り、その上で、更に高いレベルでの深い活動を希望する生徒の活動を支援するために、今年度「SSH メラーボプロジェクト部」を創設いたしました。数学オリンピックや科学コンテスト等の参加や研究発表の準備、発表練習、授業時間外での実験や研究活動、海外の高校との交流や共同研究など、意欲のある生徒をサポートする仕組みです。「全体の土台を固めるとともに先端を伸ばす」という方針で進めていきます。

- 先端を伸ばすという方針については、創部した SSH メラーボプロジェクト部 の他に、本校チューターのいる「東京大学」「東京工業大学」「一橋大学」で、直接本校チューターから大学を案内してもらい、話を聞きたいという 希望者 については、チューター訪問 をさせるという企画を始めました。参加者は更に意欲が高まったと言っています。（※本校チューター：本校卒業 1, 2 年の大学生に在学生の受験サポートや相談、学習指導などを依頼している）（※一橋大学についてはキャンパスに外部者を入れられないということで、チューターに高校で説明をもらった）

- また、1 年生に対する企画の「社会人出張講義」（外部の方を招いて職業について聞く）の同日、企業や研究所に出かけて、職場見学も含め、働く姿から学ぶという「知の探訪」には 希望者 を募り「新潮社」「富士通川崎工場」「ミラバイオロジクス株式会社」を訪問しました。

- 「グローバル人材の育成」については今年度、台湾や韓国、ニュージーランドの高校とのオンライン交流を進めてきました。その中で、今回、台湾でも有数の伝統校であり進学校である「台湾国立新竹高級中学校」（※高級中学校は日本で高校に当たる）と姉妹校協定を締結いたしました。今後は、共同研究や訪問交流などを進めていく計画です。

※12月6日に、台湾国立新竹高級中学校 郭珍祥校長と二校間の姉妹校交流協定を締結、7日に台北で開催された台湾の教育部主催の「臺日教育交流 20 周年式典」の「台日学校友好宣言締結式」において台日学校友好宣言締結書を手交して参りました。

姉妹校交流協定締結



右：台湾国立新竹高級中学校 郭珍祥校長

※ 台湾国立新竹高級中学校は新竹市にある今年創立 100 周年を迎える伝統校であり、台湾でも有数の進学校です。

また、新竹市は台湾のシリコンバレーと称され、IT企業を初め、台湾国立陽明交通大学や国立科学工芸博物館などがあります。

本校では希望者を対象とする SSH 研修旅行として新竹高級中学校を含め上記の施設訪問を計画しています。



左：台湾日本関係協会会長

蘇 嘉全氏

右：日本台湾交流協会台北事務所代表

泉 裕泰氏

「臺日教育交流 20 周年式典」において郭珍祥校長と「台日学校友好宣言」

○校地整備も終了目前となりました。人工芝のテニスコート 4 面の施設も完成し、既に授業や部活動で活用しています。多目的広場も生徒の憩いの場となるものと期待しています。



中央棟 3 階から正門方向を撮ったもの